

全科協ニュース

URL <http://jcsn.kahaku.go.jp>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9857 Fax.5814-9898 平成17年7月1日発行（通巻第203号）

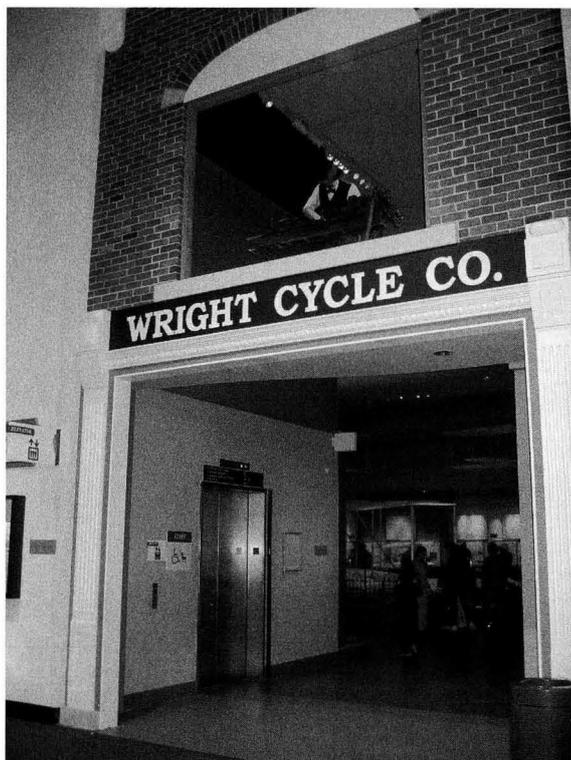
特集 効果的な展示方法を求めて 現代・スミソニアン展示

スミソニアン特別研究員 松本 栄寿

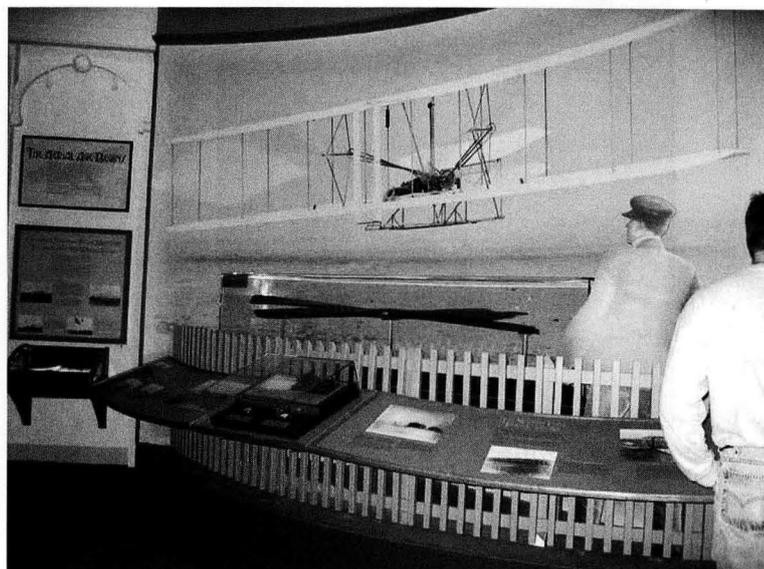
1846年に創立されたスミソニアン協会は、19の博物館群と天体物理学研究所やパナマ熱帯研究所を傘下にもつ世界でも珍しい総合研究機関である。ワシントンの中心地には、10をこす博物館がモール地区を囲むように展開している。まだまだ、スミソニアンの拡張は続いている。2003年暮れの航空宇宙博物館新館の完成、2004年9月のアメリカンディアン博物館のオープンとつづき、次はアフリカ系アメリカ人博物館まで予定されている。

スミソニアンの展示は、収集品モノを並べるのではなく、ストーリーをつくってその中にモノを生かす展示である。また、スミソニアンも伝統ある展示をどう見直すか、観客を意識し、キュレーターが新しい表現をしようとしている。程度の差はあれ、自然史博物館、アメリカ歴史博物館、航空宇宙博物館に共通の問題である。例を上げよう。

年間1000万人以上が訪れる航空宇宙博物館は、何時も観客であふれている。アメリカの誇る航空機と英雄の殿堂とも言えよう。誰しも一度は見たいライト兄弟機も展示されている。しかし、ライト兄弟機は1903年の初飛行後、すぐにはアメリカの宝としてスミソニアンに受け入れられなかった。初飛行の解釈をめぐるライト兄弟とスミソニアンとの論争が45年間もつづき、ようやく1948年にスミソニアンに展示された。航空宇宙博物館展示の多くは宝物を陳列するキャビネット展示に近かったが、ダレス空港近くの新



「ライト兄弟機の新展示」
(航空宇宙博物館)



館がオープンしてモール地区本館のライト兄弟機の展示も変わった。天井から吊り下げられていた機体は、より近寄って見られるようにフロアに下ろされ、ライト兄弟の工場やデイトンの町並みなど、発明の行われた環境が語られるストーリー展示になった。

1912年に建設された自然史博物館は、本格的な博物館としてはスミソニアンで最も古い。その範囲も人類学、民族学、自然史全般におよび、コレクションも1億2000万点を数える。そのなかのアフリカ・コレクション、エスキモー・コレクションなどは、世界的な規模を誇り展示の歴史も長い、その反面100年近く同じ展示をつづけてきたことになる。

入口を入ると、まず巨大なアフリカ象が目にとまる。陸上最大の動物として、自然史博物館のシンボルとしてロタダ中央に開館以来鎮座している。

私たちのアフリカ大陸のイメージ、アフリカに住む人々のイメージはどこからくるのだろうか。多くは子供に頃に博物館で見た展示風景、学習絵本でみた挿し絵などの印象が色濃く残っているのではなからうか。アフリカ探検家の描写や、アフリカの民芸品コレクションなどにも影響されている。だが、テレビ時代の現代もテレビ映像から得られるアフリカの情報は決して多くない。アフリカはいまだ未

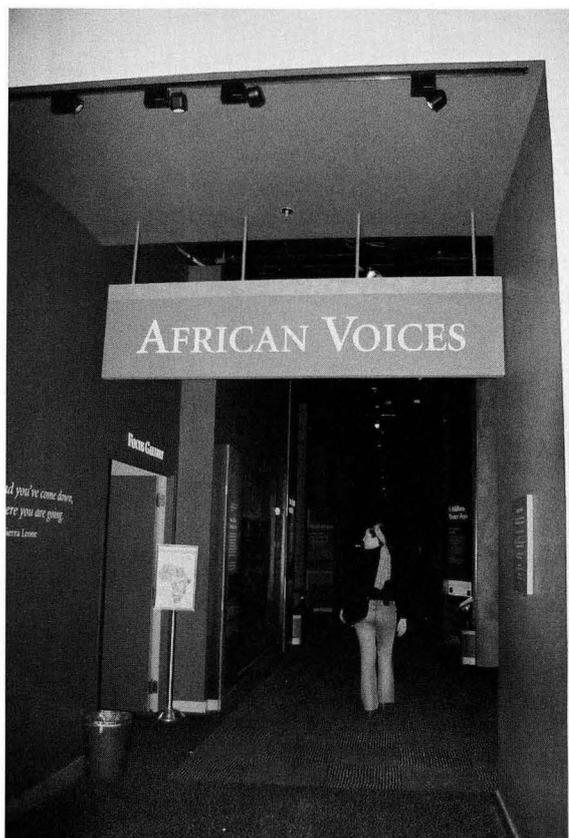
開の地であり、未発達な社会との認識から後進国のイメージが多いと思われる。多くの博物館展示は「原始的」「野蛮人」のイメージをかりうじて否定した段階で、そこから抜け出してアフリカ文化を積極的に表現し理解しようとの考えには至っていないと思われる。

人類学部キュレーターのアーノルディさんはそれに挑戦した。2003年にオープンした「アフリカの声」(African Voices)展がそうである。内部にはいると、古代エジプト、近代エジプトから、現代アフリカにいたる展示が見られるが、圧巻は入口の情景である。

入口を入ると右手に大きな写真がある。手前の土で固められた家屋と、コンクリートビルの混然とした市街から、遠くにピラミッドが映っている。この写真左手に大型画像があってこの映像を映しだしている。まずカメラは遠くのピラミッドを映しズームアップしてくる。しだいに近づくカメラはピラミッドの前に一頭の駱駝を捕まえる。さらに近づく、そこには一人の遊牧民が乗っている。ゆっくり散歩かな？ まてよ、さらに近づくカメラは遊牧民の顔をクローズアップする。すると、なんと携帯電話を手に持ち話している様子である。「これが現代アフリカよ！ This is Africa」。



「アフリカの声」とアーノルディさん

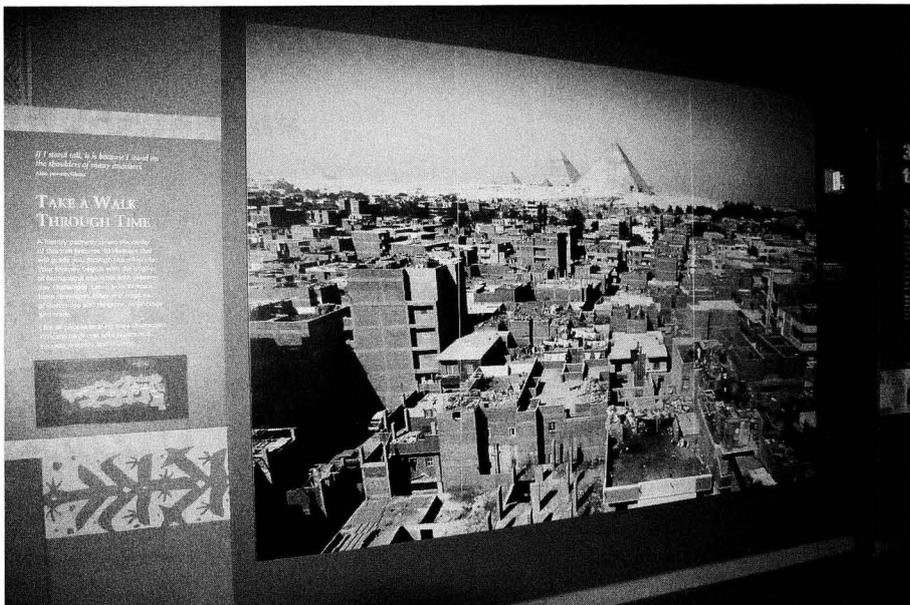


冷静に考えれば当たり前の風景である。しかし、この風景は1876年に電話を発明者したグラハム・ベルにとっても予想していなかった事であろう。私はアーノルディさんの案内でこの展示を見たとき言葉を失った。このような展示を企画し実行するのが現代のキュレーター魂であろうか。

ベルの残した遺産は何であったろう。ベルの電話の送話器・受話器だけではない。いや、ベルの遺産は、世界中の地下や空中に張り巡らされた途方もない長さの電線と電話局の交換機能である。それがなければ電子メールもインターネットも成立しなかった。また個人が文明社会に属しているかどうかは、個人が電話線につながるかどうか (wired or not) で決まり、現在その個人がどこにいるか、リビヤ砂漠か、太平洋の真ん中か、には無関係である。「これがアフリカ」の入口の展示はまさに現代文明論を物語っている。

さらに入口のビデオは現代のアフリカ、喧噪たるケニアのマーケットを映す。食器・家具・衣料品あらゆる嗜好品が取り引きされ、品物がトラックに山積みされマーケットを後にアフリカ内陸に向かう。その横を入ると内部にモダンなファッションショーの様が見られる。改めて衣装デザイナーもモデルも、全てアフリカ現地の人達であるのに気づく。

このような展示はどのように組み立てられるのだろうか、アーノルディさんの言は、「私たちだけでは駄目ね。準備のプロジェクトチームに、アフリカからアメリカに留学して博物館学を学んだ学生に参加してもらおうのよ」。



「アフリカの声」ピラミッドと現在の市街 (文明社会は Wired or Not から)

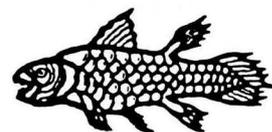
現代・スミソニアン展示はこのような背景で組み立てられている。

(参考書：松本栄寿・小浜清子訳『スミソニアンは何を展示してきたか』玉川大学出版部、2003)

美術

はく製

〈各種生物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限会社 東洋近代美術研究所

製作所 〒272-0816 千葉県市川市本北方2-18-1 ☎047-337-5678
FAX 047-338-1978

本社 〒272-0834 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

E-mail:toyobken@taupe.plala.or.jp

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

株式会社 丹青社

〒110-0005 東京都台東区上野5-2-2 TEL 03-3836-7221(代表)
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡
URL <http://www.tanseisha.co.jp>



INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT
ONY KOBO CO.,LTD.

東京都千代田区神田神保町2-7-3シグマ神保町4階
TEL (03)3221-1102(代) FAX (03)3221-1185



動物園/水族館/博物館
企画・設計・施工

利用者の心はどう動くのか—展示開発のときに考えること

林原自然科学博物館 展示普及部エデュケーター 井島 真知



入口を入ると、大きなブラキオサウルスがむかえる。

東京有明にあるダイノソアファクトリー（以下DF）では、恐竜の骨格をたくさん展示している。これらの標本を見たときの利用者の反応は「大きいね〜。こんなのがいたら踏みつぶされちゃうね」「こんなにとがった歯でかみつかれたら大変だ」「肉を食べたら美味しいのかな？」などが一般的である。骨格からその恐竜が生きていた時の姿を想像し、それを自分の生活と関連づけているようだ。他にも、発掘調査道具を見た時に自分が持っている道具との類似に注目するなど、自分との関わりを述べる利用者は多い。DFで展示している標本は、利用者の普段の生活とはほとんど関係のないものばかりだ。それでも利用者は、自分の持っているもの、生活、経験などに照らし合わせて、展示物と自分との間に何らかの関わりを見出している。利用者が展示を見てまず考えることは、それが自分自身の世界とどんな関係があるのかということのようだ。

恐竜の姿に興味をもち想像するのは利用者も研究者も同じである。とはいえ、利用者の想像の手がかりがそれまでに見たことのある図鑑や映画、または他の博物館の展示であるのに対し、研究者は化石として残された証拠に着目し、それを基に恐竜の姿を復元していく。利用者の前にあるそ

の骨格も、研究者が化石のひとつひとつを研究し復元した結果である。しかし、そのような復元に至る研究の過程を意識して標本をみる利用者は少ない。

DFの展示は、研究者たちが恐竜の世界を復元するために地層や化石のどんなところに注目し、何を考えているのかが中心である。私たち展示開発者のねらいは、研究者の科学的思考を共有することによって、利用者が博物館の標本や博物館を出てからの自分のまわりの世界を、新たな見方でより興味深く感じることができるようになるということである。展示で見る骨格や復元図はどんな証拠に基づいているのか、展示を見ることで利用者はどんどん疑問をもつかもされない。効果的な展示とは、そんなふうに利用者の思考を刺激し、幅広くするものではないだろうか。

では、研究者の見方を共有し利用者の思考を刺激する展示とはどのようなものなのか？ 共有するといっても「はい、これが研究者の見方ですよ」と利用者伝えることは簡単ではない。たとえ博物館が伝えたつもりでも、それが利用者にピンとこなければ、自分と関係のないものとして片付けられてしまい、利用者の思考を刺激するには至らない。利用者はみな、それぞれの「ものの見方」をもって博物館へやってくる。そしてその「見方」を通して展示物を解釈していくのだ。ここでいう「見方」とは、単に標本のどこを見るかというだけではない。その人の思考のシステムとでも言えるだろうか。それは、見る人自身の知識、価値観、経験などが複合したものである。例えば博物館が保存状態の良いすばらしい標本だと思って化石を展示しても、それを見た利用者がその標本の意味を共有するとは限らない。ほとんどの化石が断片的であることを知らなければ、その化石のすばらしさは実感できないだろう。また、化石をもとに過去の世界について知るといふ研究そのものに価値を見出せなければ、標本がすばらしいかどうかは気にもならない。他方で、全く違う分野でも証拠をもとに考えて復元することに類似した経験があれば、その標本の意味を共有できるかもしれない。さまざまな知識、価値観、経験が標本の解釈に関係するのだ。

効果的な展示とは、このような利用者の知識、価値観、

経験に関連する思考システムを考慮したものではないかと思う。展示手法として双方向やインタラクティブという言葉がよくいわれるが、何かを操作すると動くという物理的な意味だけでなく、利用者の思考と博物館の思考がインタラクティブでなければならないと思う。展示の効果として、メッセージが利用者にどの程度伝わったかを指標にすることも多いが、博物館が提示した通りに利用者が考えるようになることだけが展示の効果ではない。博物館の提示する「見方」に利用者が賛同しない場合も、それが利用者のそれまでの考え方を揺さぶったり、補強することになれば、利用者の思考を刺激するインタラクティブな展示といえるだろう。利用者の思考を刺激するには、展示開発者は新しい手法を追うばかりではなく、利用者について知る必要がある。その上で、展示内容と手法、そして利用者の思考システムとの関連を考えていくのだ。

最近、DFでは小規模な展示キットを作成した。複数の標本のかたちを手にとってよく観察して爪と歯を見分けるというものだ。実際にキットが使用される場所を見てみると、スムーズに観察を始めている利用者は「よく観察するとどこの骨かわかる」という概念をもって、「じゃあ、爪と歯を見分けるポイントは何なのか」という利用者の疑問とキットの活動が一致しているようだ。しかし、どれが爪でどれが歯かという問いが利用者自身の問いとなっていない場合は、標本を手や口に近づけて「ガオー！」と叫ぶだけの結果になってしまう。キットの発する問いが利用者の思考システムとひびき合わないまま終わっているのだ。では、このキットを利用してもらうには、事前に恐竜研究における観察の意味やおもしろさの概念をもっている必要があるのだろうか？ 利用者を観察していると、必ずしもそうではない。トピックが何であれ、「見分けることができるようになる」ということ自体が利用者の満足を生む活動となりうる。「見分けてみたい」という利用者の気持ちをキットがうまく刺激できた場合、それが活動の入口となって、そこから観察の意味やおもしろさが伝わることも多い。観察してもらいたい一心で爪と歯の区別の説明パネルをやたら工夫しても、利用者に観察してみようという気持ちが起るとは限らない。利用者の「見分けてみたい」気持ちはどこから生まれてくるのか、いろいろな角度から考えてみることによって、標本の置き方、パネルによる問いかけ、またはスタッフの声かけなど、適切な方法がみえてくるの

だ。

このキットの例もそうだが、展示を通じて利用者に関わるうちに、展示の内容と手法、利用者の思考システムがどう作用しあっているのか、新たに気付かされることも多い。効果的な展示のために考えなければならないのは、利用者の心の動きについて考え、利用者とのコミュニケーションをしながら展示を開発する「プロセス」ではないだろうか。利用者について知り、利用者とのコミュニケーションを考える過程は、博物館自身が何に価値をおき、どのような思考をしているのか、展示で伝えたいことは何なのかを明らかにすることもできるのだ。



展示を開発したスタッフが展示室で利用者とのコミュニケーションをする。その結果が展示の改善や新しい展示(キット)につながることも多い。

* 展示開発チームや方法の例としては Kathleen McLean 著 *Planning for People in Museum Exhibitions* が参考になる。DFの展示開発方法は、そこに紹介されているようなチーム編成、開発方法に近い(翻訳は『博物館をみせる：人々のための展示プランニング』玉川大学出版部)。

鉄道博物館(2007年秋開館予定)の展示計画について

財団法人東日本鉄道文化財団 鉄道博物館プロジェクト 本間 俊浩



鉄道博物館 外観パース

鉄道博物館は、JR 東日本創立20周年記念事業のメインプロジェクトとして、埼玉県さいたま市に建設するものである。経済・社会発展の大きな牽引力となってきたイノベーション（技術革新）、常に進歩・発展を目指して新たな技術とシステムを生み出してきた人間の素晴らしさを、現代文明における最大の発明の一つと言われる鉄道を通じて、多くの来館者に伝えていきたいと考えている。

鉄道博物館のコンセプトは次の3つである。

①日本及び世界の鉄道に関わる遺産・資料に加え、国鉄改革や JR 東日本に関する資料を体系的に保存し、調査研究を行う「鉄道博物館」とする。

②鉄道システムの変遷を、車両等の実物展示を柱に、それぞれの時代背景等を交えながら、産業史として物語る「歴史博物館」として位置づける。

③鉄道の原理・仕組みと最新（将来構想を含む）の鉄道技術について、子どもたちが、模型やシミュレーション、遊戯器具等を活用しながら、体験的に学習する「教育博物館」としての性格も持ち合わせる。

また、施設の諸元は次のとおりである。

①所在地；埼玉県さいたま市大宮区大成町3丁目、同北区大成町4丁目（JR 大宮駅より埼玉新都市交通「大成」駅下車徒歩1分）

②敷地；約42,500m²

③建物；延床面積 約20,000m²

④展示スペース；約9,600m²

⑤実物展示車両；35両

⑥その他の施設；運転シミュレータ、模型鉄道ジオラマ、ミニ運転列車（屋外）、資料収蔵庫（一部見学可能）、図書収蔵庫、映像コーナー、多目的ホール、ギャラリーバルコニー、軽食・喫茶、ミュージアムショップ、研究室、事務室等

⑦開館時期；2007年秋頃

■これまでの経緯

現在、年間40万人弱の来館者がある交通博物館は、鉄道記念物12件（うち3件は重要文化財）を含む約25万点もの資料を収蔵する、国内有数の企業博物館である。しかし、現在の建物は築後約70年を経過し老朽化・陳腐化が著しく、さらに用地が狭隘なため、今後発展が望めないのみならず、早晚その事業の維持すら困難になることが予想される。

そこで、JR 東日本創立20周年記念にあわせて、さいたま市のご協力をいただきながら、同市大成地区の JR 東日本用地に移転することとし、あわせて事業分野を鉄道を中心にして、名称も「鉄道博物館（Museum of Railway）」とすることとした。

■鉄道博物館のビジョン

鉄道博物館の展示施設は、大きくわけて歴史ゾーン（仮称）と教育ゾーン（仮称）の2つに分かれる。この2つのゾーンの展示の理念と方針は次のとおりであり、これらに基づき、鉄道博物館の展示を開発していく。

(1) 歴史ゾーン

①基本理念

来館者が、日本における鉄道の役割と影響を理解し、その歴史を学び楽しむことの手助けをする。

②展示方針

- ・英国からの技術導入で誕生した日本の鉄道が、その後の日本の環境に即した独自の発展を遂げ、新幹線に代表される世界一の鉄道を築き上げるに至った歴史について、特に技術面での革新にスポットライトを当てる。
- ・可能な限り実物を用い、文化・社会両面において鉄道が与えた影響を加味しながら、当時の情景を再現展示する。
- ・携帯端末等を活用して、来館者のニーズに応じた情報を提供できるようにする。
- ・日本の鉄道システムの変遷上各時代を代表する車両とし

て、保存すべき対象車両35両を展示する。

(2) 教育ゾーン

①基本理念

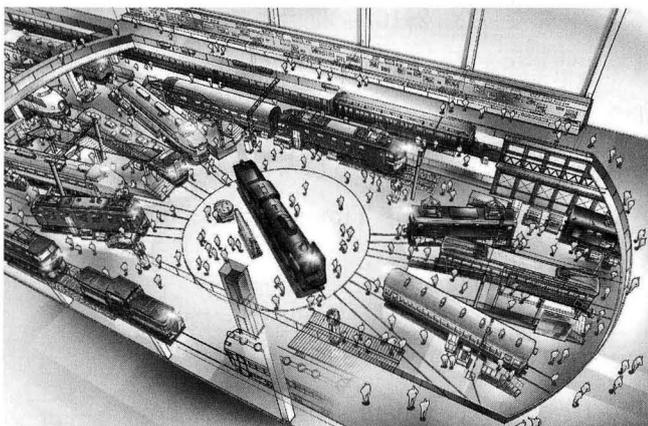
子供たちが、鉄道の仕組みや技術を理解し、その内容を学び楽しむことの手助けをする。

②展示方針

- ・展示内容は中学校1年生レベルまでの理科を基礎とし、ターゲットは主に東京圏に在住する小学生とする。
- ・子供たちの興味をふくらませるようなテーマを選択し、スタッフと一緒に展示を体験しながら学ぶことを基本とする。
- ・各テーマにおいて実物を最低1つは用い、子供のスケールで展示をつくる。
- ・大きな子供と共存して遊ぶことが難しい低年齢の子供が安全に遊べるようにするため、乳・幼児とその保護者専用の展示スペース（キッズスペース）を設ける。

■歴史ゾーンの展示計画

歴史ゾーンは、展示面積が6,000㎡程度、1階の階高が約7mもある大空間を使用する計画であり、ダイナミックな展示空間を演出したいと考えている。また、中央部分には転車台を設ける予定で、転車台を使用したイベントや展示車両の一部入れ替えなどを企画していきたいと考えている。



歴史ゾーンの内観

歴史ゾーンは7つのコーナーに分け、各々の時代を代表する車両を展示する計画である。展示車両の選定にあたっては、まず全国に現存する車両のうち、国鉄・JR他社・私鉄を問わず、技術的なエポックとなった車両、多くの人々に親しまれた車両、世相を大きく反映して生まれた車両等、「将来にわたって保存すべきと考えられる車両」を約100両選定した。そして、この中から、鉄道博物館が開館する2007年までに廃車される見込みのない車両を除いて実地調査を

行い、保存状態や場所などを確認した上で、35両の車両を選定したものである。

■教育ゾーンの展示計画

教育ゾーンは、博物館施設の北側に配置され、主に小学生を対象とした参加体験型展示を中心にしていく考えである。ここでは、鉄道に应用されている科学原理や仕組みなどを、自らの体験を通じて「気づき」「発見」してもらうことを目指しており、広く学校教育の一環として活用していただくことも視野に入れている。

また、教育ゾーンでは、実際の鉄道の仕事を体験できるコーナーも設置する予定である。ここでは、通常の「鉄道ごっこ遊び」では体験できないような臨場感を味わってもらう計画である。そして、鉄道が様々な作業の連携により「システム」として稼動し、それによってはじめて安全で安定した列車の運行が実現していることを、実際の体験を通じて伝えていきたいと考えている。そのため、いわゆる車両整備工場のほか、駅、さらには列車運行の場面なども設ける計画である。車両整備工場における台車の点検・整備作業、駅でのきっぷの発売や列車出発の指示、列車乗務中の安全確認やドア開閉などを体験してもらう計画である。

そして、鉄道システムの理解の集大成が、ミニ運転列車である。本物の鉄道の運行システムと同様のシステムを有するミニ列車を自ら運転することで、鉄道を深く理解し、楽しんでもらいたい。九州鉄道記念館に設置されているミニ運転列車をベースに、450mm程度の軌道にレール集電で駆動する列車を戴線、自らマスコンとブレーキを操作し、信号現示に従って運転する計画である。ただ運転するのではなく、運行時刻表を携帯した定時運行、多彩な線路配置を用いた緩急設定、単線交換など、様々なメニューを用意したいと考えている。

■その他の施設

このほか、資料収蔵庫の一部を見学できる資料収蔵庫展示（バックヤード・ミュージアム）や文書・図書の閲覧コーナー、現在の交通博物館でも人気のある運転シミュレータ、日本最大の面積を想定している模型鉄道ジオラマなどを併設する計画である。

2007（平成19）年の開館を楽しみにしていただきたい。

なお、鉄道博物館の最新情報は、ホームページ（<http://www.railway-museum.jp>）を通じて適宜提供しているので、是非ご覧いただきたい。

ストックホルム国立科学技術博物館

Antarctica - it's coooooo!

2005年6月6日 - 2005年7月17日

Hedlund's Motor - Nisse Hedlund and the motorcycle

2005年7月2日 - 2005年9月25日

<http://www.tekniskamuseet.se/>

ノーベル博物館

Albert Einstein "for his discovery of ...

<http://nobelprize.org/nobel/nobelmuseum/>

フランス

ラ・ビレット

The world of Franquin

2005年9月4日まで

Grossology (For Children)

2005年8月21日まで

<http://www.cite-sciences.fr/>

パリ国立自然史博物館

Greenland Ammassalik: contact

2005年4月6日 - 2006年1月2日

<http://www.mnhn.fr/>

ドイツ

ドイツ科学技術博物館

Koeter, Magister Pomi, Farmer: the Rural Professions

2004年3月19日 - 2006年3月19日

Living with spare parts

2004年5月9日 - 2005年6月30日

Gustav Otto (1883-1926) - A Pioneer of the Aircraft Industry in Bavaria

2004年10月10日 - 2005年1月31日

<http://www.deutsches-museum.de/>

オーストリア

ウィーン技術博物館

Sweeping the Bend - Motorcycles from 1945 to 2005

2005年4月3日まで

Austria constructs - Wieder-Aufbau & Marshall Plan

2005年10月2日まで

<http://www.tmw.at/>

チェッコ

プラハ国立技術博物館

HR Giger - Giger in Prague

2005年4月14日 - 2005年7月13日

Microprocessors - hearts of the computer

2005年6月7日 - 2005年8月28日

<http://www.ntm.cz/>

ニュージーランド

サイエンス・アライブ

Whai Ururangi - Wayfinder

2005年4月8日 - 2005年6月28日

<http://www.sciencealive.co.nz/>

カナダ

サイエンス・ノース

Speed!

2005年3月5日 - 2005年9月5日

<http://sciencenorth.ca/plan/calendar.html><http://sciencenorth.ca/whatsnew/speed/>

サイエンス・ワールド

Playing with Time

2005年6月4日 - 2006年1月2日

<http://www.scienceworld.ca/>

英・北アイルランド

ベルファーストW5

Myths and Monsters

2005年7月2日 - 2005年10月2日

<http://www.w5online.co.uk/>

英・イングランド

アット・プリストル

Imagine

<http://www.at-bristol.org.uk/><http://www.bbc.co.uk/science/humanbody/competition/><http://www.wellcome.ac.uk/en/imagine/gallery.shtml>

ロンドン科学博物館

The Hitchhiker's Guide to the Galaxy Exhibition

2005年5月28日 - 2005年11月27日

<http://www.sciencemuseum.org.uk/hitchhikers/>

* (やすい・りょう) E-post: RGYasui@obirin.ac.jp

7月8月の特別展

開催館	展覧会名	開催期間
岩手県立博物館	テーマ展「岩手の実業家 金田一勝定・国士～銀行・電気・鉄道・花巻温泉～」	5月21日～7月3日
	特別展「義経展～源氏・平氏・奥州藤原氏の至宝～」	7月23日～9月4日
秋田県立博物館	企画展「風ひかる棚田」	4月23日～7月10日
ふくしま森の科学体験センター	特別展「第5回サイエンスアイデアコンテスト受賞作品展示」	5月14日～9月25日
郡山市ふれあい科学館	企画展「星の色を探る」	7月1日～8月31日
日立シビックセンター科学館	夏の特別展「世界のカラクリ工房展」	7月23日～8月31日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	第34回企画展「46億年のタイムカプセルー南極大陸から未来が見えるー」	7月16日～9月25日
栃木県立博物館	企画展「とちぎの歴史街道ーみちの世界へー」	7月23日～9月11日
	テーマ展「土のひみつ」	7月16日～3月31日
高崎市少年科学館	みんなの友達 ロボットと遊ぼう！「おもしろロボット展」	7月28日～8月21日
群馬県立自然史博物館	企画展「パレオが見ていた大海原～化石から探る太古の群馬～」	7月16日～9月4日
さいたま市青少年宇宙科学館	特別企画「夏休みワクワク科学工房2005」	7月16日～8月31日
川口市立科学館	巡回展「ナーノの冒険」	4月3日～9月11日
	巡回展「サイエンスブック」	4月23日～7月18日
狭山市立博物館	企画展「大妖怪展」	7月9日～9月11日
千葉県立中央博物館	企画展「わくわくたいけん2005 旅する地球の水」	7月2日～8月31日
東金こども科学館	地域子ども教室夏期特別展「鉄道模型で遊ぼう」	7月16日～7月17日
科学技術館	「青少年のための科学の祭典【2005全国大会】」	7月28日～8月2日
逓信総合博物館	「放送80年・NHKファミリーフェスタ」	7月22日～7月31日
国立科学博物館	特別展「縄文V S 弥生」	7月16日～8月31日
機械産業記念館（TEPIA）	第17回展示 Part III「e-ライフ展～生活産業の新技术」	4月8日～7月22日
たばこと塩の博物館	企画展「ある日のメルカード（市）風景～マヤのくに・グアテマラの生活と信仰～」	6月2日～7月10日
	特別展「第27回夏休み塩の学習室 海と塩のハテナ？」	7月21日～8月31日
三菱みなとみらい技術館	特別展示「見つめよう！わたしたちの地球」展	3月15日～9月25日
横浜こども科学館	夏休み特別展「大ゲーム展」	7月16日～8月31日
馬の博物館	テーマ展「エンペラーズカップ100周年展」	6月11日～7月18日
	テーマ展「海外作家の名馬展」	6月11日～7月18日
	テーマ展「夏休みこどもミュージアムーあそびー」	7月21日～8月28日
	テーマ展「絵本 赤べえの世界」	7月21日～8月28日
神奈川県立生命の星・地球博物館	特別展「化石どうぶつ園ー北アメリカ漸新世の哺乳類ー」	7月16日～11月6日
新潟県立上越科学館	上越市合併記念特別展「恐竜展」	7月30日～8月21日
富山市科学文化センター	特別展「琉球列島の自然」	7月15日～9月11日
立山カルデラ砂防博物館	佐伯邦夫写真展「雪 美しき」	7月2日～7月20日
	企画展「雨ー誕生・恵み・脅威」	7月23日～8月31日
黒部市吉田科学館	特別展「北前船と次郎吉ーはるか海を越えた名もなき大使たちー」	6月4日～9月4日
佐久市子ども未来館	ミニ企画展「とびだせ！宇宙へ～宇宙を見よう！宇宙へ行こう！～」	5月21日～7月18日
	夏の特別企画「科学実験たんけん隊！」	7月23日～8月31日

開催館	展覧会名	開催期間
飯田市美術博物館	寄贈記念特別陳列展「飯田つむぎのころー広瀬忠一の織物ー」	6月23日～7月18日
	特別陳列展「原人がいた頃のシカ」	6月28日～8月18日
	特別陳列展「絵図で見る飯田城」	7月16日～8月18日
	第58回 長野県美術展	8月28日～9月4日
岐阜県博物館	特別展「線路はつづくよ～岐阜、鉄道のあゆみ～」	7月16日～9月4日
中津川市鉱物博物館	第9回企画展「ようこそ！ガラスの国へーガラスの話ー」	7月31日～11月20日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「世界のおもしろカメ展」	7月16日～9月4日
豊橋市自然史博物館	第20回特別企画展「よみがえれ！愛知のいきものたち」	7月15日～9月11日
トヨタ博物館	企画展「人がクルマに恋した世紀ートヨタ博物館の秘蔵展」	3月15日～9月25日
鳥羽水族館	50周年特別パネル展「鳥羽水族館の50年」	5月15日～12月31日
滋賀県立琵琶湖博物館	企画展示「歩く宝石オサムシ～飛ばない昆虫のふしぎ発見～」	7月16日～11月27日
みなくち子どもの森自然館	特別展「花の不思議」	7月13日～9月25日
兵庫県立人と自然の博物館	企画展「コウノトリの野生復帰と自然再生」	7月10日～9月25日
鳥取県立博物館	特別展「遙かなる進化ー恐竜・マンモスそしてホモ・サピエンスー」	7月16日～8月28日
倉敷市立自然史博物館	特別陳列「高山植物写真展」	6月25日～8月21日
広島市こども文化科学館	「被爆60年『ヒロシマと路面電車』～被爆をのりこえて～」	7月26日～8月14日
	夏休みこどもスペシャル「ロボット大集合！」	8月18日～9月4日
防府市青少年科学館	「未来の科学の夢絵画展」	6月18日～7月3日
	夏休み特別企画 青少年のための科学の祭典『おもしろサイエンス in ソラール2005』	7月21日～8月24日
山口県立山口博物館	企画展「走れ！新幹線」	7月29日～8月28日
萩博物館	「『宝島』の作者スティーブンスンがつづる吉田松陰伝」	7月9日～9月4日
あすたむらんど徳島子ども科学館	第13回企画展「それいけ！虫むし探険隊」	7月15日～8月30日
愛媛県立博物館	特別展「重信川の自然」	7月30日～8月25日
	テーマ展「石鎚山に咲く花」	6月1日～7月27日
	テーマ展「日本最古の地層」	8月2日～9月25日
佐賀県立博物館	常設特別展「理科室の住人ー標本の世界を探検！ー」	7月15日～9月4日
宮崎県総合博物館	特別展「中国の遺宝 大唐王朝 女性の美 展」	6月11日～7月31日
沖縄県立博物館	企画展「新収蔵品展ー平成16年度 収蔵資料ー」	7月5日～7月24日

【展示更新】

倉敷市立自然史博物館(岡山県)

[展示室名] 第4展示室「植物の世界」

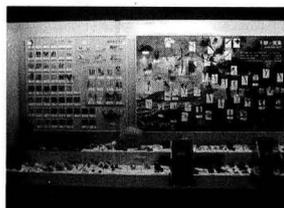
[主なコーナー(展示物)] 生物の五界説、植物のかたち、植物のなかま、くらしの中の植物、植物の分布、倉敷市の植物、岡山県の植物(実物標本993点、二次資料ほか3,081点)

[展示面積] 155m²

[オープンの期日] 平成17年3月20日

[展示の設計・施工] 株式会社 丹青社

[総工費] 12,726,000円(工事関係委託費のみ)



板橋区立教育科学館(東京都)

[展示室名] 科学展示室

[主な展示物]

「デジタル通信とアナログ通信」
「デジタルキーボード」

[更新の展示面積] 4m²

[オープンの期日] 平成17年5月1日

[準備期間(基本設計・実施設計・施工期間)]

6ヶ月(各2ヶ月)

[担当業者(設計・施工・展示)] 株式会社学習研究社

[総工費] 7,000,000円



お知らせ

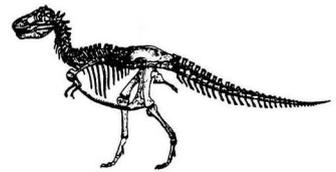
○[平成17年度 東レ理科教育賞]

対 象：中学校・高等学校レベルでの理科教育における
新しい発想と工夫考案にもとづいた教育事例
応募資格：中学校・高等学校の理科教育を担当、指導、ま
たは研究する方
応募締切：平成17年9月30日（金）必着
問い合わせ：（財）東レ科学振興会 Tel：047-350-6104
E-mail：JDP00117@nifty.ne.jp
<http://www.toray.co.jp/tsf/index.html>

○[(財)福武学術文化振興財団 平成17年度研究助成]

対 象：歴史学・地理学、および地理学、歴史学の融合
された研究分野
助成期間：平成18年4月より1年間
応募締切：平成17年9月30日（金）当日消印有効
問い合わせ：同財団事務局 Tel：042-356-0810
<http://www.fukutake.or.jp/science/top/index.html>

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者



ティラノサウルス・REX

株式会社 **ゼネラルサイエンス**
コーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表 FAX 03 (3584) 6247

省スペース展示に最適な、小型ドームCG映像システム
メディアグローブ、誕生

メディアグローブは世界で初めてフルカラー
投映を可能にした小型・高精細のデジタル
プラネタリウム。さらにドーム全天に高画質な
CG映像を投映するマルチ投映機能を持ち、
さまざまなシーンで活躍します。
▶各種イベント等にも対応。レンタルもご相談ください。

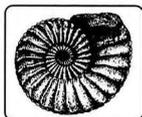


コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

東京事業所 〒163-0512 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル12階 TEL (03) 3349-5301
大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス11階 TEL (06) 6110-0570
東海事業所 〒442-0067 愛知県豊川市金屋西町1-8 TEL (0533) 89-3570
URL: <http://konicaminolta.jp/planetarium/>

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



since 1974

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)

大英博物館/恐竜復元模型

●常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)

東京サイエンス

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL.03(3350)6725 FAX.03(3350)6745

<http://www.tokyo-science.co.jp> E-mail:info@tokyo-science.co.jp

「人が集う空間」という意味を、ノムラはいつもトータルで考えています。

集まる理由を、ノムラは知っています。

集客環境づくりの調査・コンサルティング、企画・デザイン、設計、制作施工ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

NOMURA <http://www.nomurakougei.co.jp>
株式会社 **乃村工藝社** 本社：東京都港区芝浦4-6-4 電話03-3455-1171(代)

高品質表現力

文化施設・商業施設・動刻・ディスプレイ・デザイン・制御演出・施工

kokoro

株式会社 **ココ**

〒205-8556 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL：042-530-3939 FAX：042-530-4050
<http://www.kokoro-dreams.co.jp/>

全科協ニュース編集委員会

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 資料課長

國府田良樹

川口市立科学館サイエンスワールド 学芸係 久保田耕平

千葉県立中央博物館 教育普及課長 森田利仁

国立科学博物館 広報・サービス部 情報・サービス課長 井上透

国立科学博物館 広報・サービス部 広報課専門職員 原田紀子

全科協事務局

国立科学博物館 広報・サービス部 情報・サービス課 守井典子

Tel.03-5814-9863 Fax.03-5814-9898

発行日 平成17年7月1日

発行 全国科学博物館協議会◎

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社